

昭和電工株式会社 2021年2Q 決算説明会 Q&A要旨

日時：2021年8月11日（水）10:00～11:30

説明者：代表取締役 社長CEO 森川 宏平

代表取締役 常務執行役員 CFO 竹内 元浩

* 内容は、開催日時点の情報に基づいております。

【全社】

Q 事業ポートフォリオ改革の一環として、事業売却は概ね目途がついたとのことだが、検討した案件は完了したのか。

A そうだ。事業売却は事業価値ベース 2,000 億円の想定に対して 7～8 割に達し、大所は終わったという認識。

事業ポートフォリオ改革に終わりはなく、必要と思われる施策は今後とも実施していく。

Q 株主還元の方針を教えてください。

A 「統合新会社の長期ビジョン(2021～2030)」で示した通り、ネット D/E レシオが 1 倍に近づくまでは、当面の間は可能な限りでの安定配当に努めることが基本方針。

【エレクトロニクスセグメント】

Q MAMR、HAMR の採用状況をどう見ているか。

A MAMR は下期から量産開始予定で進めている。HAMR は量産化へ向け、開発スピードを一層加速していく。

Q 下期の HD の販売数量は、どの程度の増加を見込んでいるのか。

A 上期比 4 割程度の増加を見込んでいる。

Q SiC エピタキシャルウエハーの成長見通しは。

A 今後のパワー半導体においては、より高い品質・性能が要求される分野が多く登場することが予想される。その動きの中で Si（シリコン）製を代替するというより、価格面含めて SiC 製の採用が拡大していくと考えている。

【無機セグメント】

Q 2017 年対比の黒鉛電極の販売価格、原料ニードルコークス価格と、下期の販売数量見通しは。

A 黒鉛電極の販売価格は 2017 年比で上期 2 倍弱、4Q は 2 倍強を見込んでいる。ニードルコークス価格は、上期は同 2 倍程度、下期は 3 倍程度と見ている。下期の販売数量は上期比 2～3 割程度増加の見込み。

Q 黒鉛電極価格が 4Q から本格的に上昇すると見ている背景は。

A 米国の大手顧客向けには、7 月から 10%程度値上げを実施した。欧州向けは 7 月の当初契約から追加要求量が増えているが、増量分については 4Q から上期対比で 30～40%程度の値上げを予定している。

原料ニードルコークスの調達価格上昇に伴い、4Q からのアジア向けの値上げを交渉中。

Q 下期は上期比で増収減益と見ている要因は。

A 上期は低価格戻り益が相当程度あった一方で、下期はその効果が概ね無くなるのが理由。引き続き需要は強い。

【昭和電工マテリアルズセグメント】

Q 半導体の活況がしばらく続くと見られる中で、下期以降の成長性をどう見ているか。

A 今年度の半導体関連材料は前年度から 20%程度の売上成長を見込んでいる。足元の好調な業績は、これまで半導体関連材料へしっかり投資を行い、その成果を刈り取れたことが大きい。当面の間、半導体の成長が鈍るとは考えにくく、当社はその成長をしっかりと取り込んでいく。

以上

* 本資料の将来見通し等に関する記述は、今後以下のような様々な要因により実際の業績と大きく異なる結果となる可能性があります。

- ・COVID-19 拡大が世界経済に与える影響、経済情勢、ナフサ等原材料価格、黒鉛電極製品等の需要動向および市況、為替レート
- ・法改正や訴訟等のリスクなどが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

また、為替レートや国産ナフサ価格など予想の前提につきましては、2021年8月10日発表の弊社決算短信をご参照ください。